

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (平成 28 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	学習指導 教育課程	①半期単位認定(Semester制)の教育課程を編成し、年次進行型での運用に取り組む。 ②組織的な授業改善を進め、生徒の学力の伸長を図る。	①新しい教育課程を運用し、課題等を検討する。 2年次生に対する適切な履修指導を行う。 ②アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業実践により、学力の伸長を図る。	①新しい教育課程を運用し、授業計画・内容を検討する。 ②アクティブ・ラーニングの視点を踏まえ、表現活動において生徒同士が共に学びあい、自己表現力を高める授業を行う。	①新しい教育課程を運用し、授業計画・内容を検討できたか。 ②アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善を行えたか。	①新しい教育課程の運用に対応する時間割編成に努めた。 ②校内授業研究などにより、主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」)の視点を踏まえた授業実践への取組が進んだ。	①時間割編成に関しては、授業時間数の確保等、引き続き検討したい。 ②今後も主体的・対話的で深い学び(「アクティブ・ラーニング」)の視点を踏まえた授業改善を進め、主体的・対話的な深い学びの実現を目指す。	①1年次は年次進行型の実施となった。最低限学ぶべき共通の科目を履修する形式となりわかりやすい教育課程となった。 ②高大接続改革においても思考力・判断力・表現力等が課題とされているなか、さらに授業改善に取り組んでほしい。	①昨年度に引き続き希望進路別に2年次、3年次の履修科目を確定できた。履修登録に向けた、時間割組立てサンプルについては検討を続ける必要がある。 ②公開授業研究会などの機会によって、主体的・対話的な深い学びの実現をめざす授業実践に取り組む教員が増えた。	①教育課程については、たえず見直していく。また、時間割組立てサンプルについても検討を続けて実施する。 ②校内授業研究を、より組織的に取り組むことによって、一人ひとりの教員の授業改善への意欲を高めたい。
2	生徒指導・支援	①学校行事、部活動、委員会活動の更なる活性化を図り、その活動を通じて、人間形成を図り、全人教育を実践する。 ②生徒一人ひとりの個を尊重した支援体制の充実を図る。	①生徒の自主性を伸ばしながら、行事や部活動の中で、社会性・計画性・指導力や忍耐力を育てる。 ②教職員が連携し、個々の生徒に丁寧に指導を行い、適切な支援を行う。	①各行事や委員会の課題の解決方法を考えさせ、行事や日頃の活動をよりよいものにする。 部活動を中心に挨拶運動を展開する。 ②「心の健康チェック」などを活用し、気になる生徒を早期に把握し、教職員の協力のもとで教育相談全体支援会議を中心に、支援を必要とする生徒への指導を適切に行う。	①行事や委員会等の課題を明確にして、その解決にあたることのできたか。 挨拶をする生徒が増えたか。 ②教育相談全体支援会議やスクールカウンセラーと連携して支援の必要な生徒に対応できたか。	①行事や委員会等の課題を明確にし、その解決方法を考えさせることで、生徒の意見交換や活動への意欲が高まった様子が見えた。挨拶については、教員からの呼びかけ、生徒会の朝の挨拶運動を行ってきた。運動部の生徒および一部の文化部の生徒はおおむね良好。 ②支援の必要な生徒を早期に把握し治療につなげるなど、必要な指導を行うことができた。	①教員から課題への対応策を示すことはせず、引き続き、生徒に解決方法を考えさせ、その実行にあたる。 挨拶指導は、引き続き全体で取り組む。 ②教育相談全体支援会議は円滑に運営されているが、担当職員の負担が多いこともあるのでその軽減を図る工夫をしたい。	①生徒会の業務の一部を委員会活動に移すことで委員会活動も活発になった。 ②メンタル面での支援を必要とする生徒を把握し、スクールカウンセラーと連携して対応できている。	①文化祭、体育祭については、今年度も昨年度の課題を踏まえて改善を図った。生徒委員会で行事に関する議論が活発に行われた。 ②「心の健康チェック」などを活用し、教育相談全体支援会議を通じて、適切な支援・相談体制を維持できている。	①引き続き生徒会行事の内容、運営の改善を図る。 ②若い職員も増えており、教育相談全体支援会議に出席してもらい、実践的な校内研修の機会を提供していく。
3	進路指導・支援	生徒がより高いレベルでの進路実現を達成できるよう進路指導の充実を図る。	生徒一人ひとりの進路希望を全職員で共有し、生徒指導・学習指導とより緊密な連携を図って生徒を支援する体制を作る。	①学習時間調査や進路希望調査を実施するとともに、さまざまな学習の機会を提供し、生徒一人ひとりに細やかなサポートができるようにする。 ②実力試験やスタディーサポート、3年次でのセンターリサーチの結果を分析し、生徒の進路希望を学校全体で共有し、高いレベルでの進路実現につながるよう支援する。	①調査を適切に実施し、充実した学習の機会を提供することができたか。 ②分析結果を各年次・各教科に適切に情報提供し、学校全体で生徒の進路実現を支援する気運をつくれたか。	①各年次で、生徒の実態を把握し共有に努めた。また、それを進路説明会等でフィードバックした。学習機会は、土曜講習(1279名)や夏期講習(2384名)、小田高セミナーなどで多くの学習機会を提供することができた。 ②生徒の一人ひとりの実態がわかるように実力試験の過年度比較資料を作成し、職員全員で共有することができた。	①マークシートリーダーを活用するなどし、データ処理の簡素化・スピード化を図っていきたい。 ②より有益なデータベースの構築を目指し、職員間でのさらに効果的な共有方法を検討したい。	①学習時間調査などによって生徒の状況を把握できている。年次での指導で活用できている。 ②キャリア通信などにより、生徒の状況が過年度との比較などにも情報提供されている。	①学習時間調査や進路希望調査を適切に実施し、実力試験のデータを活用するなどして、それぞれ把握する体制が確立している。 ②スタディサポートと実力試験の結果を分析し、過年度との比較などを通して成果や課題を全校で共有できている。	①学習時間調査などのデータ処理をマークシートリーダーの活用によって簡素化・スピード化を図る。 ②データの分析等を『進学のおしり』等にも掲載するなど、より有効な活用方法を検討していく。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域との協働を推進し、地域から信頼される学校づくりを進める。	①生徒の視野を広げ、幅広い学力を育てるために地域等の教育力を活用する。 ②学校の教育活動を積極的に情報提供して、地域から信頼される学校づくりに取り組む。	①生徒会、部活動などで地域との交流や地域貢献活動に積極的に取り組む 防災訓練(年2回)や地元自治体との協議をとおして、地域と連携して災害に備える。 ②学校説明会や学校公開、ホームページを通して、日々の教育活動や生徒の活動などの情報を、地域等の方々の視点からわかりやすく提供する。	①生徒会や部活動などが地域との交流や地域貢献活動に積極的に取り組んだか。 防災訓練での連携、防災に関する協議はできたか。(実施状況) ②学校説明会や学校公開では、参加者にわかりやすい説明ができたか。 ホームページでは、日々の教育活動について迅速に発信することができたか。	①生徒会は地域の方と協力して小田原の特産物紹介などを行った。運動部・文化部ともに、地域の方や中学生と交流を図っている。また、小田原寺子屋スクールに希望生徒が参加したり、海外の教員や生徒の視察や交流活動を受け入れて地域だけでなく、海外と協働して行うプロジェクトを拡充した。 小田原市防災対策課と協議を行い(6月)災害時の役割分担などを再確認した。また広域避難所訓練(10月)に参加して地元自治会との連携を図った。今年度も年間3回の地域貢献活動(地域清掃活動)を計画通り実施している。 ②3回実施した本校単独学校説明会では、昨年度より約300人参加者数が増加した。参加者アンケート結果より、本校の教育活動について分かりやすく説明することができた。 学校行事や部活動の活動状況などの情報を適時ホームページを通して発信することができた。	①生徒会や部活動が行っている地域との交流を継続、促進する。また、海外からの視察や交流活動も可能な限り受け入れたい。 本校は帰宅困難者の一時受け入れ施設になっているが、避難場所にはなっていない。津波が予想される際、近隣住民が避難してくる可能性を視野に入れて対策を考える必要があり、今後、災害の状況をより細かく想定して対策を練る必要がある。 ②本校の教育活動により理解していただくために、学校説明会の内容やホームページの構成内容についても引き続き検討していく。	①生徒会や部活動などが地域との交流に積極的に取り組んでいる。また、地域貢献活動に積極的に取り組んでいる。 小田原市防災課との協議により、災害時の役割分担が確認され、地域と連携して災害に備えている。 ②学校説明会や学校公開では、学校で実践している教育活動について分かりやすく説明することができ、目標を達成することができた。 学校説明会やホームページ以外の情報発信方法についても検討して欲しい。	①難民に子供服を送る活動を地域と連携して進めた。夏季休業中に剣道部やバスケットボール部が地域の中学生を招いての大会を開催した。 また、年間3回の地域貢献活動を計画し、計画通り実施している 小田原市防災課との協議により、災害時の役割分担が確認され、また、広域避難所訓練に参加して地元自治会との連携を図ることになっている。 ②学校説明会や学校公開では、多くの参加者に本校の教育活動について、理解していただくことができた。 学校行事や部活動など、生徒の様子をホームページで適時発信することができた。	①地域貢献や交流に関わる活動に参加する機会を増やしたい。 災害の状況をより細かく想定して対策をたてていく。 ②本校の情報を発信する方法やその内容について、引き続き検討していきたい。
5	学校運営 学校管理	職員の一人ひとりが、生徒の夢を実現するため、相互協力の中で業務にあたる環境を整える。	①事故・不祥事防止に向けた意識を共有し、同僚性の高い職場環境をつくる。 ②「成績処理」「入学者選抜」等に係る事故防止に向けた見直しと教職員への周知に努める。	①教職員が県の方針と学校の教育方針を十分理解し、事故・不祥事防止に万全を期せるよう、マニュアルを整備し、研修会を実施する。また、学校運営の実態を踏まえた適正な予算編成とその執行に努める ②「教務の手引き」の見直を図る。 「成績処理」等について、教職員へ周知する。 「入学者選抜マニュアル」の見直しと研修会等を通して、事故防止に努める	①教職員の事故防止に向けた意識を向上できたか。 適正な予算編成と執行がなされたか。 ②「教務の手引き」の見直ができたか。 「成績処理」等について教職員に周知できたか。 「入学者選抜マニュアル」の見直しと研修会が適切に実施できたか。	①「すく〜るねっと操作マニュアル」を配布し、研修会を実施し、確認を教職員に周知した。 ②事故防止等に係る内容も含め「教務の手引き」の見直しを行った。「入学者選抜」に関しては、「入学者選抜業務要項」や「採点・点検マニュアル」等を見直し、各種研修会を実施した。	①「すく〜るねっと」「成績処理」に関しては、引き続き問題点等を検討し、事故防止に努めるとともに、教職員の意識の向上を図る。 ②「教務の手引き」に関しては、引き続き問題点等を検討し、改善に努める。 「入学者選抜」に関しては、「入学者選抜業務要項」や「採点・点検マニュアル」等の見直しを行い、事故防止と円滑な運営に努める。	①事故・不祥事防止のための職員研修会が実施されていて、教職員の意識の向上を図られている。 ②「教務の手引き」の見直しを行った。「入学者選抜業務要項」や「採点・点検マニュアル」等の見直しを行い、事故防止と円滑な運営に努めた。	①事故・不祥事防止のための職員研修会の実施により、教職員の意識の向上を図っている。 ②「入学者選抜業務要項」や「採点・点検マニュアル」等の見直しを行い、事故防止と円滑な運営を実施できた。入試方法の変更にともない、引き続き課題を整理・検討し、改善する必要がある。	①「成績処理」「入学者選抜」等について、問題点・改善点を整理・検討していく。 ②入試方法の変更にともない、引き続き課題を整理・検討し、改善していく。